

8月13日 AM7:00、参加者10名が松本に集合し、車に乗り合わせ出発、AM8:00、沢渡駐車場で2名と合流、タクシーに乗り換え上高地に向う。AM8:30ここで待つ1名を加えて、総勢13名となる。準備を整えAM9:00過ぎ、上高地を出発する。天候は晴、しかし上空は雲が漂う。ヤマアジサイが満開に咲く林道を進む。徳沢を過ぎると時折野猿の姿を見かける。AM12:30 涸沢との分岐、横尾に到着、昼食を摂る。



上高地へ集合した13名



明神岳、前穂高岳稜線に雲がかかる徳沢



森林帯を一行縦列で進む

30分程の休憩後、森林帯の狭い登山道を一行縦列となり進む。一時間程で一ノ俣の丸太橋、しばらくで二ノ俣の吊橋を渡り、峡谷の森林帯の急坂を登るとPM2:30 槍沢ロッジに到着、泊する。

14日、AM4:30起床、朝食を食べAM5:30 槍沢ロッジを予定より早くに出発。天候は快晴。見上げると、林の間から小さく三角推形状の槍ヶ岳が望まれる。槍沢の溪流に沿って30分程の登りで、ババ平に到着。狭い平地に所狭しと、テントが張られている。ここから低木帯となり、左に横尾尾根、右に赤沢岳がそそり立つ峡谷に梓川源流が流れ、前面に東鎌尾根の稜線が遥かな高みに望まれる。



中岳、大喰岳を望む槍沢



シナノキンバイ



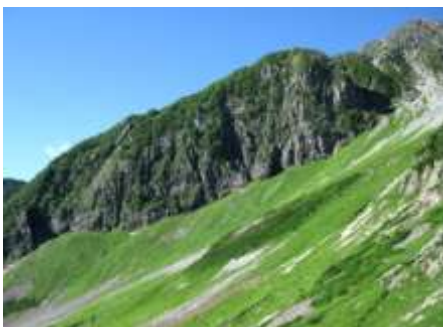
ハクサンフウロ



梓川源流沿いの登山道を登る

梓川源流沿いの緩やかな登山道を登ると30分程で槍沢へ屈曲する大曲りへ出る。ここは東鎌尾根最低鞍部、水俣乗越への分岐にもなっている。視界が開け、槍沢上部を仰ぐと主稜線に中岳、大喰岳が聳え、その間から幾つかの沢が流れ落ちてくるのが望まれる。積雪期には、雪崩の巣となる危険地点だ。

シナノキンバイ、ハクサンフウロ等の花々が咲き競う、槍沢の山斜面の百曲りの登山道を、一步一步登る。いよいよ急となったジグザグ道を登り詰めるとAM8:30 這松が帯状に連なるグリーンバンドに登り出る。展望が変わり、登る前方に大きく、三角推形状の槍ヶ岳が間近に聳え立ち、その素晴らしい姿に登山の疲れが、いっぺんに吹き飛ばすようだ。



槍沢西側のすずめ岩



急坂のジグザグ道を登り詰める



グリーンバンドから望む美しい槍ヶ岳



チシマギキョウ



ミヤマダイコンソウ



肩近くから仰ぐ槍ヶ岳岩峰

岩礫の登山道をジグザグに登り続ける

後方に常念岳、蝶ヶ岳を望みながら、坊主岩脇を抜け、殺生小屋を右に見て、ミヤマダイコンソウ、チシマギキョウ等の高山花が咲く、岩礫の登山道をジグザグに登り続けると、AM10:30 槍ヶ岳肩に登り出る。北側に肩から高度差100mの槍岩峰が間近にそそり立ち、大勢の登山者がその岩壁に米粒のように取り付いている。

荷を置き、早速私達も槍ヶ岳山頂を目指す。岩壁に足場を捉え、手がかりを探し登る。鎖を掴み、長い鉄ハシゴを登り切ると AM11:10 槍ヶ岳山頂 3180mに、全員見事に登頂する。「おめでとう!」、雲が湧き遠望は効かないが、近くの稜線を望む。15分ほど留まり岩場の降下を開始、PM12:10 槍ヶ岳肩に帰還し、昼食とした。



南に、霧雲が舞う中岳、南岳、穂高岳を望む



槍頂上直下の登り



槍ヶ岳山頂 3180mに登頂

PM1:00 槍ヶ岳肩を出発、岩稜線の縦走路を進む。後方に天を突く槍ヶ岳を望み、一旦飛騨乗越に下り、再び岩礫の登山道を登り続けると、PM1:30 広い頂上を持つ大喰岳 3101mに登頂する。この頃から稜線に霧が舞い始める。大喰岳からは、信州側に残雪をいただく稜線を歩く。途中、冷たい西風を避け、ミヤマシオガマ、イワツメクサ、タカネヤハズハハコ等の高山花の咲く花畑で、小休止して談笑を楽しむ。ここからは、仰ぐ岩礫帯の岩場を攀じり、鉄ハシゴを登り詰めると、すっかり霧に覆われた PM2:30 中岳 3084mに登頂する。

頂上から20分程降りた中岳雪渓の水場を通過し、トウヤクリンドウ咲く岩礫の登山道を進む。振り返ると槍ヶ岳の先鋒が霧に、見え隠れしている。チシマギキョウ、ウサギギク咲く稜線を辿り、氷河公園へ向かう横尾尾根との分岐を通過すると、いよいよ霧が濃くなり、PM3:15 濃霧に覆われた南岳 3033mに登頂する。記念撮影もそこそこに下山を開始し、PM3:30 南岳小屋に到着、泊す。



槍ヶ岳を背景に、縦走路を進む



ミヤマシオガマ



タカネヤハズハハコ



イワツメクサ



大喰岳 3101mに登頂

15日、晴の朝を迎える。しかし上空に霧雲が流れる。北に槍ヶ岳、南に御岳、乗鞍岳を望むが、それ以上の遠望は効かない。AM6:45 出発。縦走路最大の難所、大キレットへ降下を開始する。降り始めの岩礫帯を過ぎると、急峻な岩場の降下が続く。岩場のわずかな凹凸にスタンスを確保しながら、手がかりを確実に捉え、慎重に下山する。この頃から早くもキレットの鞍部に、霧雲が流れ始める。最下部の長い鉄ハシゴを降り、最低鞍部付近で小休止する。降りてきた大絶壁を、振り返り見上げると、身震いする程だ。



イワギキョウ



登る前方、雲霧が流れる大キレット

南岳からの急峻な岩場の下降が続く

最低鞍部から岩礫路を登り、いよいよ長谷川ピークから馬の背への登攀にとりかかる。取り付けられたクサリや金具も頼りに、切り立った岩稜線を降下する。A 沢のコルで小休止後、岩壁を攀じり、“飛驒泣き”と呼ばれる切り立った岩峰を乗り越える。霧間から滝谷の大障壁が眼前に迫ってくる。しばらく急斜面の岩場をジグザグに登り詰めると、AM10:30 北穂高小屋にようやく辿り着く。ここで早めの昼食を摂り、腹ごしらえをする。昼食後、小屋脇に設けられた岩階段を登り、AM11:00 北穂高岳 3106mに全員登頂する。



長谷川ピークを下降する



A 沢コルから岩稜線を登攀する



北穂高岳山頂 3106mに登頂する

北穂高岳からは急峻な岩尾根を進む。稜線西側の眼下には、「鳥も通わぬ滝谷」といわれる高度差 1000mの大障壁がそそり立っている。しかし濃霧が湧き、西側は視界 50m程で何も見えない。この霧の中、メスの雷鳥が 5羽のヒナを連れ歩く姿に出会う。しばし緊張感がほぐれ、心が和む。最低鞍部からは、落石に注意して岩壁を攀じり、涸沢槍を経て涸沢岳への最後の難関に挑む。

しばらくの登攀の後、岩溝のクサリを頼りに、満杯の力を使って体を迫り上げると、涸沢岳山頂へ続くなだらかな稜線に登り出る。PM2:00 涸沢岳山頂 3110mに全員登頂する。「おめでとう！」皆、難関を乗り越えた安堵の笑顔が見れる。この頃から雨が降り出し、全員濡れながら PM2:30 穂高山荘に到着、泊する。一息ついた頃、各人、今日の登攀の思いを胸に祝杯の美酒に酔う。



濃霧の中、急峻な岩尾根を進む



雷鳥と 5羽のヒナ



トウヤクリンドウ



涸沢岳山頂 3110mに見事登頂

16日東に漂う雲を橙色に染めて朝陽が昇る。AM6:30準備を整え、濃霧に覆われた奥穂高山荘を出発。いきなりの50m程の岩壁を攀じるとなだらかな登りの岩礫帯のジグザグ路に行く。稜線を進むと、霧間から道標と祠が見えてきた。AM7:15、北ア最高峰奥穂高岳3190mに全員登頂する。風を避けて頂上直下の岩陰で小休止。好天気ならば、北方に槍ヶ岳、北穂高、涸沢岳が聳え私達が登って来た全ての峰々が望まれるはずだった。



雲を橙色に染めて朝陽が昇る



岩礫帯を登る



北ア最高峰奥穂高岳3190mに全員登頂

AM7:30吊尾根の岩稜線をトラバース気味に前穂高岳へ向かう。濃霧の岩陰にヨツバシオガマ、ウサギギク等の高山花が、風に揺れて咲いている。AM9:20紀美子平に到着。軽荷で山頂に向かう。岩場を攀じり、岩稜を登り続けると、AM10:00前穂高岳山頂3090mに全員登頂する。濃霧の為、展望は効かないが、3000m峰8座目となる山頂に皆感慨もひとしおだ。



岩場を攀じり、岩稜を登り続ける



ウサギギク



ヨツバシオガマ



前穂高岳山頂3090mに見事登頂

AM10:50紀美子平から下山開始。いきなりの岩稜の急斜面も、慎重に下降。途中昼食を摂り、腹ごしらえをして、PM1:40岳沢ヒュッテへ到着。ここで小休止して森林帯の緩やかな下山路を下る。PM3:45上高地の登山口へ到着。「おめでとう！」登山道から林道に出て、皆ほっと安堵の笑顔を交わす。



岳沢への急峻な岩場を下降する



岳沢へ下山する



上高地へ下山「おめでとう！」

観光客でごった返す河童橋付近を通過すると、雨が降り出した。上高地バスターミナル2階食堂のMHC登山講習写真展会場で、温かいコーヒー等で体の疲れを癒し、混雑の中、全員タクシーに乗り込み、PM4:30上高地を後にする。PM5:00沢渡駐車場に到着。沢渡に車を停車している2人とはここで別れ、残り11名は、車に乗り合わせ、帰路を急ぐ。PM6:00松本で最終解散としました。

「岳人憧れの難ルートを踏破した参加者皆様の勇気と情熱に敬意を表すると共に、皆様にとって、これからの登山人生に、大きな自信となる。」事でしょう

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則